

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491200018	事業の開始年月日	平成22年10月1日
		指定年月日	平成22年10月日
法人名	株式会社保健科学研究所		
事業所名	グループホーム寒川かえで園		
所在地	(〒253 -0111) 神奈川県 高座郡寒川町一之宮9丁目25番地47号		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2ユニット
自己評価作成日	令和3年3月12日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個性を大事にし、出来る事・出来ない事を把握しいつまでも張りの貼る生活が送れるように支援行ってます。毎日の下着に交換にて、清潔保持に努めています。現状は、コロナウイルス感染予防で密にならないように、万が一コロナウイルス感染した時に、直ぐに対応出来るようにマスク等を確保してます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年3月13日	評価機関 評価決定日	令和3年3月23日

新型コロナウイルス感染防止の観点から書類方式とする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇充実した医療体制による利用者の健康管理 協力医訪問診療(2週間毎)、看護師訪問(毎週)、歯科訪問診療(月1回)、歯科衛生士訪問(毎週)がある。協力医とは、24時間医療連携体制にて緊急時の対応が可能である。また、毎日の体操や天気の良い日の散歩、食前の口腔体操、食事準備への参加、ベランダの花への水やりなどとおして、筋力をアップし体調の維持、生きがいの充実に努めている。
【事業所が工夫している点】 ◇モニタリング結果の介護計画への反映 利用者の日々の「モニタリング情報」を所定の様式に記入し、利用者の介護目標の実践結果と達成状況を毎日判定し、ケアカンファレンスで検討して、介護計画の継続・見直しを決定している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	寒川かえで園
ユニット名	もみじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を確実に覚えてはいるが、地域の方との交流を深める為に、積極的に挨拶などを取組実践している。	・「人格の尊重・家庭に近い環境・明るく元気で自立した生活、地域への社会参加」をキーワードとした理念を、事務所に掲示している。 ・ユニット会議や日々のケアで、理念に沿った実践に努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防としまして、ゴミ出し等は職員で行っていません。日常的に交流が出来てません。	・自治会に加入している。 ・利用者は「どんど焼き」等に参加する等、地域住民と交流している。 ・将棋、傾聴等のボランティアが来所し、利用者と交流している。 ・今年度はコロナ対応で地域住民との交流はできていない。
3		事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思えます。	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思えます。	・地域代表、民生委員、家族、役場職員、地域包括支援センター職員をメンバーとし2か月ごとに開催し、事業所の状況を報告し意見交換している。 ・今年度はコロナ対応で事業所状況をメンバーに書類送付している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思えます。行政での会議も、数回のみしか開催されてませんので、困難かと思えます。	・役場職員と緊密に連携して、行政の諸手続きで助言を得、相談にも乗ってもらっている。 ・例年は年2回開催される寒川地区の事業所全大会に参加しているが、今年度はコロナ対応で開催していない。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で、振り返り行い、身体拘束の研修を行っています。	・法人及び事業所の身体拘束適正化委員会があり、「身体拘束適正化のための指針」(厚労省)等を行動指針として年4回委員会を開催し、適切にケアを実践している。 ・玄関は防犯のため施錠しているが、事業所内は自由に行動できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で、虐待についても振り返り行い、身体拘束の研修を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修がありますが、職員が理解出来ている。後見人が付いている利用者の方が2名います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の不明点等が御座いましたら、ご納得いくまで説明行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思えます。	・コロナ対応で家族は事業所内に入れないが、毎月の家族宛お便りへの返信や電話等で意見の把握に努めている。 ・家族から日々の散歩、日光浴等の要望がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思ひます。	・毎月の「ユニット会議」、法人の「管理者会議」、事業所の「内部研修」、業務用連絡ノート、日常会話から職員意見を把握している。 ・利用者のケア方法の意見が多く、ユニット会議、ケアカンファレンスで検討して反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境について話し合う場があります。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修があり、新人のスタッフを出来るだけ同じスタッフが付き、トレーニングしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思ひます。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	朝の申し送り等で、気づいた点等を情報共有しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望等を伺い、1ヶ月は困っている事は何か？出来る事は何か？把握するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	朝の申し送り等で、気づいた点等を情報共有しています。その時、直ぐにその日のスタッフで、話し合う事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を情報共有して、ご本人のペースで生活が出来るように支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お小遣い持参時等、最近の様子等を報告し、電話等でご家族様との交流が出来るように支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。	・例年は、知人や近隣住民が来訪することがあり、リビングや居室で歓談してもらっているが、今年度はコロナ対応で面会を禁止している。 ・電話の取次ぎは支援する体制にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。密にならないように、食事後は居室対応をおこない、コロナウイルス感染予防に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年間の挨拶状などを定期的に郵送しています。退去され、ご連絡ある時は懇切丁寧に対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。密にならないように、食事後は居室対応をおこない、コロナウイルス感染予防に努めています。	・入居時のアセスメント情報、日常の会話から意向を把握している。表出困難な場合は、表情や仕草などから推察し、声をかけて意思を確認している。 ・誕生日の希望を聞き、ケーキ、プレゼント等を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。密にならないように、食事後は居室対応をおこない、コロナウイルス感染予防に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。密にならないように、食事後は居室対応をおこない、コロナウイルス感染予防に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る事、出来ない事を情報共有して、ご本人のペースで生活が出来るように支援しています。申し送り等、危険因子等で現状を把握して対応しています。	・ケアカンファレンス(ユニットごと毎月)を開き、医師、看護師、家族の意見、モニタリング結果を参考に、可能な全職員が参加して検討し、介護計画を作成している。 ・介護計画は、半年ごとに見直し、家族の承認を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	危険因子等で気づいたときは記録しユニット会議にて振り返り、情報を共有する。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気づいた時は、その日のスタッフで話し合い、取りあえず対策を行ってみる、行ってみた結果を申し送り、ユニット会議で再度話し合います。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に通院でなければ、全て、訪問医師・看護師往診時に報告しています。	・訪問診療は、協力医(2週間毎)、歯科医(月1回)があり、歯科衛生士(毎週)、看護師(毎週)による健康指導がある。 ・24時間医療連携体制がある。 ・疾患により、従来のかかりつけ医に家族が付き添い通院している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医師・看護師往診時に報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院さきにて、病院の相談員・医師との面談等で、早期退院にむけ相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを対応しました。訪問看護師・医師の協力でご家族と話し合い対応できました。	・利用者が重度化した場合は、救急搬送にて対応する旨、入居時家族に説明している。 ・重篤化や終末期への心構えや対応方針については、医師の意見を聞き、今後の対応に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修があり対応しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的には実施していますが、地域の方の参加は、コロナ禍もあり、出来ていません。	・自治会と防災協定を締結し、災害対策マニュアルに地震・災害への対応を明文化している。避難訓練は年2回実施している。 ・災害対応として3日分の食料備蓄、調理用具、医薬品、おむつ等を保管し、リスト管理している	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保し人格の否定等せずに、対応行っています。	・周囲の方が聞いても不愉快に感ずる発言をしない等、節度をもって利用者に接することを心がけている。 ・個人情報記載の書類は、事務所で施錠管理をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ決定を促しています。少し、待つてみる事も大事な事です。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替え・お風呂入る時の着替え、自己決定出来るように支援します。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	密を避けているので、イベントの食事は、中止にしています。	・利用者の誕生日には、昼食に本人の希望する食事を出している。ミキサー食の利用者には、柔らかいおやつ希望を聞いて対応している。 ・利用者は食後の下げ膳を手伝っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の様子観察を行い、排泄表を確認し対応行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行い実施しています。食事の時の嚥下状態の確認を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎朝、下着の交換を行っています。	・利用者各自の排泄チェック表の記録内容に目を通し、本人のその日の状況を確認して対応している。 ・適切な排泄誘導により、夜間を含めて自立を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を必ず確認する。朝の申し送り時は、排泄表を確認し前日の水分チェックを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けし本人が拒否する事あれば、時間・曜日を変更したりし対応行っています。	・入浴は午前1名、午後2名を原則とし、週2回入浴している。 ・入浴記録に、血圧、脈、体温、入浴時の様子を記入している。 ・入浴中の職員との会話を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に対応しています。コロナウイルス感染予防で、生活の習慣が出来ている方とそうで無い方がいられますが、不眠の方はいません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食ダブルで薬のチェックを薬情報を確認し対応行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れた日は、事業所周辺を30分ほど散歩している。季節により、近くの公園の桜や、街道のイチョウ並木の散策を楽しんでいる。 ・本年度はコロナ対応で外食やスーパーでの買い物はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではありますが、好天時には気分転換、健康維持を目的に事業所周圍の散歩、外気浴を今後も継続することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等はいつでも良いですよ、とご家族・利用者の方へも声掛け対応しています。面会が禁止になっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作成を行っています。居心地の良い場所を作るように対応行っていますが、コロナウイルス感染予防で密を避けています。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの壁面に、運動会やレクリエーションの写真などを掲示している。12月にはクリスマスツリーを飾り季節感を出している。 ・室温28℃、湿度50%を目標としているが、利用者や職員の体感に合わせて調節している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎月のカレンダー作成を行っています。居心地の良い場所を作るように対応行っていますが、コロナウイルス感染予防で密を避けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作成を行っています。居心地の良い場所を作るように対応行っていますが、コロナウイルス感染予防で密を避けています。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン・防炎カーテン・クローゼットを備え、仏壇、TVなどを持ち込み、家族の写真、利用者の作品などを飾って、居心地良く過ごせるよう工夫している。 ・職員がクローゼットの整理、清掃をしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立に向けた生活ができるように、日々、問題があれば、直ぐに話し合い対策を立てています。		

事業所名	寒川かえで園
ユニット名	いちょう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
職員は理念を確	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を確実に覚えているが、地域の方との交流を深める為に、積極的に挨拶などを取組実践している。		
	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防としまして、ゴミ出し等は職員で行っています。日常的に交流が出来てません。		
	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思えます。		
	4	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思えます。		
	5	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思えます。行政での会議も、数回のみしか開催されてませんので、困難かと思えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で、振り返り行い、身体拘束の研修を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で、虐待についても振り返り行い、身体拘束の研修を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修がありますが、職員が理解出来ている。後見人が付いている利用者の方が2名います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の不明点等が御座いましたら、ご納得いくまで説明行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思ひます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境について話し合う場があります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修があり、新人のスタッフを出来るだけ同じスタッフが付き、トレーニングしてます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てませんので、なかなか困難かと思ひます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	朝の申し送り等で、気づいた点等を情報共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望等を伺い、1ヶ月は困っている事は何か？出来る事は何か？把握するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	朝の申し送り等で、気づいた点等を情報共有しています。その時、直ぐにその日のスタッフで、話し合う事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を情報共有して、ご本人のペースで生活が出来るように支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お小遣い持参時等、最近の様子等を報告し、電話等でご家族様との交流が出来るように支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。密にならないように、食事後は居室対応をおこない、コロナウイルス感染予防に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年間の挨拶状などを定期的に郵送しています。退去され、ご連絡ある時は懇切丁寧に対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。密にならないように、食事後は居室対応をおこない、コロナウイルス感染予防に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。密にならないように、食事後は居室対応をおこない、コロナウイルス感染予防に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事を情報共有して、ご本人のペースで生活が出来るように支援しています。申し送り等、危険因子等で現状を把握して対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	危険因子等で気づいたときは記録しユニット会議にて振り返り、情報を共有する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた時は、その日のスタッフで話し合い、取りあえず対策を行ってみる、行ってみた結果を申し送り、ユニット会議で再度話し合います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に通院でなければ、全て、訪問医師・看護師往診時に報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入院さきにて、病院の相談員・医師との面談等で、早期退院にむけ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院さきにて、病院の相談員・医師との面談等で、早期退院にむけ相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを対応しました。訪問看護師・医師の協力でご家族と話し合い対応できました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修があり対応しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保し人格の否定等せずに、対応行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ決定を促しています。少し、待つてみる事も大事な事です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替え・お風呂入る時の着替え、自己決定出来るように支援します。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	密を避けているので、イベントの食事は、中止にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食を計って提出しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行い実施しています。食事の時の嚥下状態の確認を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎朝、下着の交換を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を必ず確認する。朝の申し送り時は、排泄表を確認し前日の水分チェックを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けし本人が拒否する事あれば、時間・曜日を変更したりし対応行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に対応しています。コロナウイルス感染予防で、生活の習慣が出来ている方とそうで無い方がいられますが、不眠の方はいません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食ダブルで薬のチェックを薬情報を確認し対応行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染予防としまして、日常的に交流が出来てません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等はいつでも良いですよ、とご家族・利用者の方へも声掛け対応しています。面会が禁止になっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作成を行っています。居心地の良い場所を作るように対応行っていますが、コロナウイルス感染予防で密を避けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎月のカレンダー作成を行っています。居心地の良い場所を作るように対応行っていますが、コロナウイルス感染予防で密を避けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作成を行っています。居心地の良い場所を作るように対応行っていますが、コロナウイルス感染予防で密を避けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立に向けた生活ができるように、日々、問題があれば、直ぐに話し合い対策を立てています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム
寒川かえで園

作成日 令和3年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	新型コロナウイルス感染症により、食事や外出レクリエーションを含め、実施出来ていない状況にある。	コロナ禍で、単調になりがちな日常生活をいつもと違う“非日常”なレクリエーションを提供する事で、日々の生活に刺激を与え、気持ちを前向きに持てるよう支援する。	感染症対策を講じた上でのレクリエーションの提供。現状、外食レクなどの提供は高リスクと思われるが、散歩やドライブ、外で行うレクリエーションの提供を企画・実施していく。	一年
2	55	開所10周年を過ぎて、施設設備の故障等が目立つようになってきた。	利用者様の生活が不便にならないよう、施設設備の保全に努めます。老朽化の目立つものや、故障したもの等は速やかに交換・修繕を行います。	毎月行いますユニット会議で、施設状況を確認すると共に、日々の利用者様の会話や、スタッフの聞き取りにより、情報収集を行います。	一年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。